

JR 長崎本線長崎トンネル内で発生させた重大事故(湧水対策を目的とした試掘ボーリングによる走行車両との接触)の原因と対策について

令和元年7月11日発生の表題の重大事故につきましては、関係者の方々におかれましては、大変ご迷惑をおかけいたしました。今般、事故原因及び今後の対策を下記のとおりとりまとめました。

今後は今回の事故原因を踏まえて、工事の更なる安全な施工に努めてまいります。

記

1. 事故原因

- ① ボーリング工事発注の際に作成した発注図面において JR 長崎本線長崎トンネルの位置が、実際の位置と異なっていました。

発注用の図面は長崎市都市計画図を元に作成し、JR 長崎本線長崎トンネルの位置については国土地理院の地図における同トンネルの位置を記載していましたが、国土地理院の地図の位置が実際の位置とは異なっていたことが判明しました。

- ② ボーリング工事前に現地で十分な確認を行っていませんでした。

長崎トンネルとボーリング工事の位置が図面上で約 80m 離れていたため、ボーリング工事による長崎トンネルへの影響はないものと判断し、工事着手前に施設管理者である JR 九州へ位置の確認を行っていませんでした。

2. 今後の対策

- ・ 工事を施工する位置の記載に用いる平面図は、機構が作成した航空測量図、国土地理院地図、都市計画図など機構が保有する当該箇所に関係するすべての図面を照らし合わせた上で作成します。
- ・ その上で、使用する平面図に記載の道路や鉄道トンネルなどの地下構造物等については、工事を施工する位置からの距離に関わらず、施設管理者へのヒアリングや現地立会により、地下構造物等の位置の確認を行った上で、作業を実施します。特に地下構造物に近接する作業の場合は、施設管理者と必ず協議の上、慎重な作業を確実に実施します。

以上

＜本件に関するお問合せ先＞
九州新幹線建設局 総務課
TEL 092-283-9602 FAX 092-283-9593

位置図

